

確かな学力を支える「学びに向かう力」の育成

～読解力の向上を基盤とした学習指導を通して～

平成29年度 大津町小中学校共通実践事項

- (1)話し手に体を向けて聞く (2)「めあて」と「まとめ」の明示
(3)家庭学習の習慣化 (4)県学力調査に向けた課題克服プリントの計画的活用

11月8日(木)
富永

10月26日(金)の研究発表会での徳淵先生の授業についての通信です。授業者の主張点と研究協議を中心にまとめていきます。その後、学校研究から見た成果と課題、助言者の先生からのお話についてまとめていきます。

10月26日(金) 4年 算数科 「がい数とその計算」

今回の授業での授業者の主張点は、概数を考える際に、「目的を持たせること」でした。これまでのこの単元の授業は、単に四捨五入をしたり、切り上げや切り捨てを取り扱わずに終わったりとその必要感等を感じることが少ないもの多かったように思います。そこで、本時では、単元をとおして、切り上げ、切り捨て、四捨五入の可能性を残し、目的に応じて概数の表し方が変わることを理解していくことをねらいとしていました。

〈研究協議より〉

めあてや課題の設定について

①本時では、概数が用いられる問題場面として、「野球場の入場者数 26841 人」という社会的事象を設定していました。そして、「Aさんは入場者数を 30000 人と表した」という提示から、「なぜ Aさんは 26841 人を 30000 人と表したのか」という問いを引き出し、第一のめあてを設定していました(授業の中での児童のめあては次々と変わっていました)。児童の「えっ、なんで」が引き出された効果的なものでした。

学びに向かう力・振り返りについて

②振り返りでは、次の3つの点のいずれかについてまとめるようにされていました。1つ目は、参考になった友だちの発言です。友達の考えを聞いて自分の考えが変わったり(変容)、自分の考えが確かなものになっていたり(補強)、日頃の実践が生かされていました。2つ目は、疑問に残ったことや新たに考えた問いです。3つ目は、概数を扱う場面です。概数を用いる目的や日常の場面については、人口や面積などの児童の振り返りがあり、次時以降の学習へとつながるものとなっていました。

〈学校の研究から見た成果○と課題△〉

- 問題解決型のめあては、効果的でした。児童の「なぜ」を引き出し、主体的に学ぶ姿がありました。
○振り返りの視点が3つあり、学習した内容を自覚したり、新たな学び(次時の学習)に向かったりする姿がありました。
△児童同士の発言(思考)のつながりや児童から生まれた問いを板書に示し、目的によって概数の表し方が変わることを考えさせることはできていました。しかし、その「問い」がすべての児童にとって切実感のあるものではなかったように感じました。そのため、すべての児童に対話が保

障されていない場面もありました。

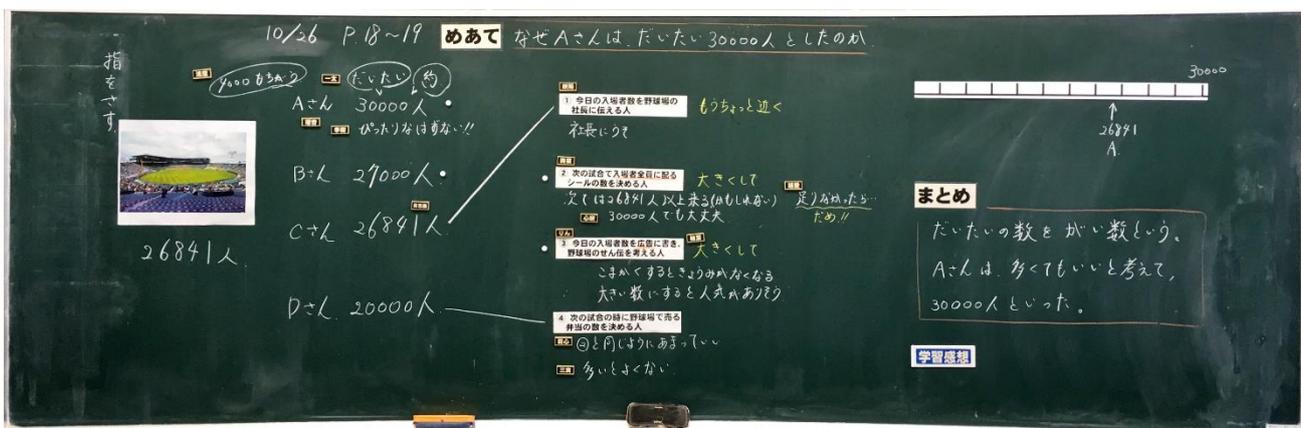
〈助言者 大津北中学校 鹿瀬島校長先生より〉

これからの授業のあり方について

これまでの授業は、教師から知識の伝達をする授業がほとんどでした。しかし、この知識というのは、今後主に、受験の時に役立つだけで、社会に出た際には役に立たないものがほとんどです。では、授業の中でどう知識・技能を獲得させるか、どう他者と学び合うかなどを考えて授業を作ることが大切になってきます。例えば、学び方を大切にした授業や友達との関わり方を意識すること（相手意識）が大切です。

問題解決学習の過程で、意思を伝えるために、道具や図、表を作るなど試行錯誤させる必要があります。学びをプロジェクト化し（学ぶことの意義を知り）、その学びを個別化、さらには協働化していき、日々学んでいくことが変わっていくことが大切です。その根幹が、教材研究であり、児童理解です。教師が、「どうして?」、「なんで?」、「どう思うの?」と切り返していくことで、「わからない」から始まる授業や、子どもたちが、他の人の意見に対して素直に「すごいね」と言える授業を目指していきましょう。

*鹿瀬島校長先生が話された内容は、「ホモ・デウス」で検索されてみると、動画があると思いますので、ぜひご覧になられてください。書店にも上・下巻ありましたので、興味のある方は読んでみてください。



〈徳淵先生の自評〉

一言でいえば、すごく楽しい授業ができました。子どもたちが問題提示に対して、「なんで?」と問いを発信する姿、友だちの発言に対して、「あ〜!!」と、納得した姿や、「いや、でも...」と反対の意見をもったり、簡単に納得したりしない姿を見せてくれました。このような姿が引き出せたことで、自分たちで考え、表現し合い、考えを変容・補強する授業を展開できたと思います。

課題は、富永先生の酷評（笑）にもありましたが、「問い」と対話が全員のものになっていなかった点です。これは、私のどの実践の中でも常に課題に挙がる部分です。ただ、本時では事前に私自身が意識した児童が7名いました。そのうち3名が授業の中心部分の時間に全体の場で発言できました。評価できるともいえますが、7名中3名を、7名中7名になる授業をまた目指していきたいと思います。

この後の概数の授業...この時間が生きて、とても充実させることができています。一緒に検討してくださった中学年部の先生方、ありがとうございました!!